

# 山口県教育

*Education of the Yamaguchi prefecture*

明日を拓く — 成果を検証する —

5

令和3年 No.1311



## ■提言 ~ITC教育の推進に向けて~

山口大学 大学研究推進機構 知的財産センター  
准教授 陳内 秀樹

令和2年度 第73回山口県学校美術展 推奨作品

「パルーシで花火をするのがたのしかったよ！」

周南市立鶴浜保育園 年長(受賞時) 廣本 夕月

## ■持続可能な地域連携教育の推進

山口県立防府商工高等学校 教諭 中村 英哲

## ■社会人基礎力を育む

山口県立防府商工高等学校 商業科 3年 岡本 蓮  
山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野太樹  
山口県立防府商工高等学校 機械科 3年 林 大輔

## ■無形遺産に、心の眼と耳をむける

なむでん踊保存会 会長 藤井 俊司

## ■やまぐち見てある記

下関市立豊北歴史民俗資料館

## ■ご案内

# 一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail [ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp](mailto:ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp)

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長:倉増誠彦/編集長:西岡 尚



あなたの  
アクションは…

山口県教育会がすすめる  
「元気やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち

# 提言 ~ITC教育の推進に向けて~

## 「ICTと探究学習の真ん中に体験と尊重を」 ～生徒の主体性及び創造性の涵養～



山口大学 大学研究推進機構

知的財産センター

准教授 陳 内 秀 樹



山口大学  
知財センター  
教材配信HP

20年後の世界、我が国を想像してみましよう。

Society5.0と呼ばれるそこはどんな社会ですか？どんな暮らしが営まれていて、どんな職業で人々は働いているのでしょうか。そして、私たちが育てたいと日々願う人物像はそこにマッチするのでしょうか。そうした未来を拓く力を育むには、私たちの授業はどうあることが望ましいのでしょうか。貴重な頁をいただきまして、私も一教員として本稿を通じて考えてみたいと思います。

ここ数十年に渡つて教育改革が叫ばれ続けています。が、その背景には我が国の国際競争の下落があります。IMD国際競争力ランクイングで見ますと、我が国は1985年において米国を上回り1位であつたものが93年には逆転され20年には34位まで落ちています。この原因の一つには米国が自国の知的財産保護を強化したことなどが上げられます。米国製品の真似ではなく新しい価値を創造しイノベーションを起こし続けることが急務と言えます。

ここで改めて意識したいのは、この数十年をかけて進んだ衰退について教育公務員である私たちは実感が不足しているのではないかということです。むしろ地域経済の疲弊に伴つて公務員の待遇が羨望されることで、「日々の仕事は大変だけど、私の職業選択はよかつたのかも：」というのが私自身も含め本心かもしれません。それが人としての弱い本音ですが、教壇に立て、頑張る意気な子どもたちを前にすると、一

そ学習指導要領が灯火にも杖にもなつてくれます。改訂にあたつて新設科目に目が行きます。しかし真に受け止めるべきはずっと前の方。「前文」と「総則」にこそ現場教職員へのメッセージが込められています。

「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的变化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう」（前文より引用）祈り込められた熱い理想です。これを理想に終わらせず実現することが、諸先輩から引き継いできた教育の専門家たる我々の仕事だと思えば、日々の業務に折れそうな心でも踏みとどまる。そうした私自身のギリギリ張った状況も「貧しさ」ゆえか、もう少し緩く働きたいとも思うところです。

さて、厳しい「現実」と、目指す「理想」を踏まえて、次にポイントを整理したいと思います。

**ポイント① 「どのように学ばせるか」～科学的、体験的、創造的、教科等横断的に学習を開拓したい～**

**【教材例①】**天ぷらを揚げる動画です（図1）。この天ぷらから出るブクブクの正体を生徒に尋ねると、正答率は大体3割程度です。不思議なことに中学から大学生まであまり変わりません。実習での体験があるから農業高校や家政科において正しい答えを自信を持つて答えるケースがありました。

我々は日々、教育に悩むわけですが、躊躇いたとき

が、テストではアウトプットできても、知識を集合して考えることができない。教科等横断が重点化される理由がここにあります。

この動画を出前授業の導入時に私はよく用います。その際、解答欄は二つ設けています（図2）。自分が考えた答えと表示された解答を書く欄です。こうした理由は、正答に合わせて自分の答えを書き直す生徒が目立つたためです。折角、自分が考え出した答えをケシゴムで消して、学びの過程をないことにしてしまって我慢なりません。また、クラスによっては中々自分の考えた答えを書かず、教員が正答を言うのを待つという戦法を獲得している場合もあります。それが彼らがたどり着いた効率良い学習なのでしょう。こうなれば根比べです。全員が自分の答えを書くまで、「間違つてもいいから…」「間違つた方が逆に印象に残つて忘れないから…」と言葉を掛けつつ机を回つて粘ります。一度だけ粘り負けたことがあります。ある高校の2年生のクラスでした。どうしても自分が考える答えを書かない。授業後、あのクラスはあれが課題なのだとしたり顔でおつしやる先生。なぜ入学してこれまで、そこに手立てが及ばなかつたのかと無力を感じ帰路に就いたことが忘れられません。私の出前授業くらいでは生徒を変容させるに至らないのです。

さて、答えは何か。「水蒸気」「水」です。答えられない生徒も、物質の3態は？水は何℃で沸騰する？天ぷらの揚げ温度は何℃？と聞くとそれぞれ解答できます。この3つを知つていれば答えに至るはずなのです。

知的財産を生み出すために大切なことは何ですか？

映像提供 インスタントラーメン発明記念館  
(株)安藤スパーキ 食文化研究所

図1 天ぷら動画 映像提供インスタントラーメン発明記念館

③の泡の正体は何?  
あなたの答え( ) 実際の答え( )

図2 ワークシート

さて、話題は授業に戻りまして、解答記入後、一人ずつ当てていきます。最初の生徒の解答が誤答でもそれを領いて受容すると、次の生徒は自分の答えを読みます。前に前者の解答をなぞる傾向もあります。この行動を起こさせる背景には何があるのでしょうか。本件は最後に、考えてみたいと思います。

この天ぶらのブクブクを見て「これは麺の乾燥に使える」とひらめいたのが安藤百福さんです。これがインスタントラーメンの発明に帰結します。安藤さんはこの発明ができるのは知識があつたからではない。大切なのは「日常の心構え」だ。「それ次第で全てがヒントに見える」とおっしゃっています。

**教材例②** 家庭科の調味料の一さしそせぞーは、料理に入れる順番だと皆答えることができます。しかし「その理由は?」と聞くと答えに詰まります。実は砂糖の分子が塩の分子の六十倍も大きいので、組織の中に砂糖を先に入れた後に塩の分子は入るけども、塩味を先につけると砂糖分子が入らないのです(図3)。「せず」醸造調味料なので火を消してから入れないと香りが飛びます。このように理科的な知識と体験とを結

## 料理の「さ・し・す・せ・そ」

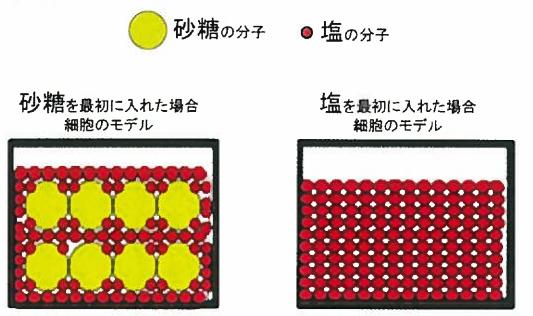


図3 「さしせせそ」の背景にある理科

The diagram shows two molecular models. On the left, labeled '砂糖の分子' (Molecule of Sugar), a yellow hexagonal ring is surrounded by six red hexagonal rings, representing a sucrose molecule. On the right, labeled '塩の分子' (Molecule of Salt), a single layer of red hexagonal rings is shown, representing a chloride ion. Below the diagrams, a caption reads: '参考: [http://www.tsujicho.com/oishii/recipe/j\\_food/ichinensei/sashisus](http://www.tsujicho.com/oishii/recipe/j_food/ichinensei/sashisus)'.

**【教材例④】お米を炊くときに硫化物の臭いがします**  
すが、この硫黄分は銀なら回収できます。銀製品を下にアルミを敷いて、塩をふって熱湯をかけると元の銀に戻り繰り返し使えます。銀座の料亭で、この炊き方で出すお店があります。ぜひ、ご家庭でもお試しください。料亭の味です。

**東北のお米が美味しいのは、火山性土壤由来の硫黄が少なく雑味がないからと言われます。そんな地理的、地学的な話にも展開できます。**

**ポイント②「課題を発見し、解決策を探究する」**

私は、植物工場のコンサルタントの仕事をしていますが、ある植物工場を歩いて回つていたら空気が流れていらない場所が見つかりました。一方に換気ファンがあつて、もう片方に水で湿らせる構造の網戸があり、ここを通ることで空気が冷やされ温室に入るという仕組みです。しかし残念なことに、冷やされ重くなつた空気は、栽培ベッドの下に逃げてしまつていて、一番換気したかった栽培ベッドの上の空気は混ざつていな状態でした。数億円かけて建設された施設ですけれども、この硫黄分は銀なら回収できます。銀製品を下にアルミを敷いて、塩をふって熱湯をかけると元の銀に戻り繰り返し使えます。銀座の料亭で、この炊き方で出すお店があります。ぜひ、ご家庭でもお試しください。料亭の味です。

A man with glasses and a white shirt holds up a very long, narrow white bag, likely a shopping bag, against a whiteboard in an office setting.

図4 膨らませるには？

ども、中学生レベルの理科で躊躇してしまっています。観察というのは五感で気づくことですし、理科のスケッチでは時間をかけて特徴を詳しく掘るためにしているのであって絵の上手下手は別問題です。さらに、測定は五感で気づけないことに気づくために行うものです。また、体験が大事だとよく言いますが、必要なのは分子としての成功体験より、父母の体験のものです。私たちは成功体験をさせたいと、ついつい生徒を失敗から遠ざけてしまいますが、人を「やってみよう」という気持ち（主体性やチャレンジ精神）に向けるのは、失敗の体験も含めた体験の総量です。

本稿の主題は、ICTなのに、これまで一度も触れてきませんでしたが、もうお気づきのことだと思います。ICTが、子どもたちから体験の機会を奪う方向で使われてはならないということが本稿の主旨です。天ぷらの動画も、実際に天ぷらを揚げている様子を見たことがあるからこそ動画を見ただけで熱量や音や臭いまでも思い起こすことができます。細長い袋を膨らます実験も、動画で見せれば一瞬ですが、ぜひ体験させたい。細長い袋を自分で試行錯誤で振り回しているうちに、クラスに一人はたまたま成功する生徒が出来ます。その子は発見の喜びと科学の不思議を興奮とともに心に刻み、一躍クラスのヒーローになるはずです。

効率的にICTを使うことで、実験やチームで協働させられる時間が以前より増えた。反転学習ではすでにそうした成果が出ていますが、そうした事例が、ここ山口から出て欲しいと願っています。

最後に、著作権的視点から。ICTにより、いわゆるコピペが容易になり、自分で考え方文章を書くことや、挿絵を描くような学習過程が少なくなるやもしれません。文章としてまとめる苦労や、一見簡単に見えるイラスト表現も実はやつてみると難しい。それと対峙し続けてこそ力がつき、その苦労があつたればこそ、他の人の創作を尊重できるマインドが育まるでしょう。

生徒の創作作品は例えデジタルであつても、生徒の個性（人格）の投影です。評価の対象として物差しを当ててしまいますが、大切な著作物としても取り扱いたいところです。生徒の創作が尊重されていくことで、我が国の未来は、イノベーションに溢れた物心両面で豊かなものになると信じています。

本稿が、児童生徒の前途洋々たる未来と、皆様の仕事と人生両面に、僅かでもお役に立てば幸いです。読んでいただきありがとうございました。

# 持続可能な地域連携教育の推進

## シビックプライドの醸成を目指して



山口県立防府商工高等学校

教諭 中 村 英 哲

### はじめに

ヘブライ大学の教授ユヴァル・ノア・ハラリ氏が、人類が進化の過程で経験した3度の革命はコミュニケーションのあり方を大きく変化させたこと、その革命の期間が驚くほどに短くなっていることを示してもうすぐ6年になる。「コミュニケーションの崩壊」を感じさせる出来事や報道が増加したと感じるのは、この提言を意識するようになつたからだけではない。

ロンドン・ビジネススクールの教授リングダ・グラットン氏が、私たち大人のこれまでの生き方が若者たちにとつてのロールモデルとならなくなりつつあることを示してもうすぐ5年になる。「人生100年時代」に類する表現を耳にしない日のほうが珍しくなってきた。人は過去から学び未来を見つめることでより良い指針を探ろうとする。「コミュニケーションの崩壊」「加速度的に変化する社会」「人生100年時代」という3つのキーワードは、生徒や教育関係者だけでなく地域にとっても避けて通れないものとなることは明らかだ。

本校で学ぶ生徒に加えて本校の学びに関わる人、さらには未来において学ぶすべての人が、これから時代において主体的・能動的に活動してほしいという強い願いを込めて、本校で行われている「これから時代に必要となる考え方」と「時代に即したコミュニケーションのあり方を提案する力を身につけるための経験」を提供するための仕組みと活動のほんの一端を示す。

### まちの未来に対する当事者意識

本校がコミュニティ・スクールとなり、地域の中の学校として地域の意見を求め始めて今年で5年目にな



「八毛」を広めるため、  
『FMわっしょい』に出演

る。運営委員や地域からは、「生徒はまちを支える市民の一人である」という意識から、生徒と一緒に成長していくべきという声があとをたたない。地域は生徒の力を欲している。

生徒の中には異世代の人との関わりが希薄で、苦手意識を持つ者が多い。また、自分たちが住むまちの特色も知らない生徒が多い。そして、いざとなると金錢で物事を解決できるのではないかという感覚を持つている彼らの中には、住むまちに対する当事者意識が見られないことが多々ある。どことなく他人行儀で少し俯瞰してまちの出来事を捉えている。

しかし、スマホネイティブである彼らは社会的な課題に対する意識が高い。折に触れて直接対話をしてみると、生徒たちは苦手意識を克服し、地域の問題に対して積極的に関わったという強い思いをもつっていた。地域と生徒、両者の二つは合致していた。おかげで本校は地域と生徒のSNSの関係を創り出している。この関係性こそが持続可能な地域連

を支えているといつても過言ではない。その事例と成果を隣のページで生徒が紹介するので少しお付き合いいただきたい。



フードバンク活動として  
寄付された食品にナンパリング

### 地域の中にある学校という視点

時間や空間を超えて繰り返されるフレーズには深い意味が込められていることが多い。学びに終わりはない。社会が加速度的に変化していくことを考えると、

学びのスタイルは刻々と変化する必要がある。本校の学びは地域とともにされることからも、常に変化するこれが求められている。新しく見えた課題は二点。醸されたシビックプライドの伝播と Society 5.0 に対応した技術の育成。これらの課題は昨年度の途中から解決に向けて動いている。別の機会に紹介したい。「まちの寿命は人の寿命をはるかに超える」とはいえ今日のまちの思いを受け継ぎ、次のまちを形づくるのはほかならぬ人だ。ここ防府市を担う人材を育成する場として、学校の外にある地域という視点ではなく地域の中にある学校という視点を忘れることなく、今後も変化を続けていきたい。

最後に、本校の地域連携教育活動をここまで育てた先輩方をはじめ、その主旨を理解しいろいろな提案を快諾してくださった関係者の皆様、私の思いを形にする機会を与えてくださった山口県教育会の皆様に深く御礼申し上げたい。



周防国分寺を撮影

私は、このふるさとパワーアップ班に入るまでは、地域の方と関わるような活動をあまり経験したことがない。自分自身が暮らすまちである防府市に対する思いも強いとは言えませんでした。しかし、この班の活動の中で、地域の方の様々な思いに接していくうちに、防府のまちをより良くしていきたいと思うようになりました。今では、防府市で行われている様々なボランティアに参加し、防府市が活気あふれるまちになるように活動を行っています。これからも、防府市民として、防府市のためになるような活動を行い、まちに貢献していきたいと考えています。

### 私の成長

「幸せますカメラ女子部」は、市内にある幸せが共感できるような場所を撮影し、Instagramで発信しています。事前にプロの写真家からカメラの設定や撮影技術などを教えてもらいます。活動の集大成として「Happy」と題して、地域の文化施設で写真展を開催します。写真展「Happy」は私たちの学年で5回目を迎えました。

私は、3年生の授業課題研究の中で、ふるさとパワーアップ班に所属し防府を元気にする活動を行つてきました。防府ブランド「幸せます」を広めるため、株式会社丸久と協働して「幸せます弁当」を提案・販売したり、プロの写真家や地域の写真愛好家と一緒に防府のまちをカメラで撮り歩く「幸せますカメラ女子部（男子もいます）」の活動を行つたりしています。

私は、3年生の授業課題研究の中で、ふるさとパワーアップ班に所属し防府を元気にする活動を行つてきました。防府ブランド「幸せます」を広めるため、株式会社丸久と協働して「幸せます弁当」を提案・販売したり、プロの写真家や地域の写真愛好家と一緒に防府のまちをカメラで撮り歩く「幸せますカメラ女子部（男子もいます）」の活動を行つたりしています。

### 課題研究



山口県立防府商工高等学校 商業科 3年 岡本 蓮

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 有志活動



山口県立防府商工高等学校 機械科 3年 林 大輔

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



山口県立防府商工高等学校 情報処理科 3年 波多野 太樹

### 情報処理科だからこそ



# 無形遺産に、心の眼と耳をむける

## なむでんのこころの伝承



「久賀のなむでん踊保存会」は、永年にわたり地域文化の振興に貢献されたことが高く評価され、令和2年度地域文化功労者表彰（文部科学大臣表彰）を受賞されました。そこで、今回、なむでん踊保存会の活動の様子を紹介していただきます。



H6.6 奉納時

### 起源

『久賀のなむでん踊』（以下、「なむでん踊り」と表記）は、周防大島町久賀久保河内地区に江戸時代から伝わる伝統芸能行事である。神屋寺（現久屋寺）7代住職の祐厚和尚が始めたといわれ、文化年間（1804～1818年）頃に始まつたとされている。

### 由来

踊りの由来は、平家方武将の斎藤実盛の故事にちなんだ。加賀の国（石川県）篠原の合戦で実盛は、馬が稻株につまずいて倒れ、落馬して討たれた。実盛の死後、農作物の被害が続き人々は実盛のたたりと恐れた。そこで実盛様を送つて、稻を病害虫から防ぐという行事が、西日本一帯で広く行われるようになつた。なむでん踊りは、踊りと供養で実盛の亡靈をしずめるという形態をとつていて。

昭和49年11月に7名が認定保持者として認定され、その後昭和51年3月に山口県指定民俗文化財として認定された。51年には大島大橋開通式典に参加をきっかけに子どもたちの部が結成され、旧認定保持者を指導者に伝承活動が始まった。



H8.9 伝承教室風景

### 虫送り

なむでん踊りは、「半夏生」の翌日に奉納される所謂虫送り行事である。半夏生は72節気の一つで、米作りにとつては大切な節目で、米の出来を左右する日安の日であった。この日までに田植えを終え、なむでん踊りを迎えることは農家にとつては大きな喜びであつた。踊り手は、太鼓2人、鉦鼓2人、デコ廻し1人、棒使い2人、シカシカ（唱えごと）1人、これに法螺貝1人、妙鉢1人が加わる。踊りは、三庭に分けて舞われ、一庭と二庭の間に棒使いの演武と、シカシカにより踊りの由来が口上される構成となつていて。

### 伝承活動

昭和49年11月に7名が認定保持者として認定され、その後昭和51年3月に山口県指定民俗文化財として認定された。51年には大島大橋開通式典に参加をきっかけに子どもたちの部が結成され、旧認定保持者を指導者に伝承活動が始まった。

なむでん踊保存会  
会長 藤井俊司



H8.9 発祥の地碑建立



無形遺産とも伝える虫送り施餓鬼「なむでん踊り」に、心の眼と耳をむけること。も現代に生きる私たちにとってとても大事なことだと思います」と伝承教室用冊子に綴つた2代目杉村保存会長の言葉を思い出して、子ども伝承教室の復活など伝承に努めたい。

が、昭和61年頃からは少子化の影響で、学校にお願いし久賀地区全体からの参加を募った。平成18年までの伝承教室参加児童生徒は202名（途中参加や退会も含め）である。

中学生から小学生が一堂に会することなかつた子どもたちにとつて、なむでんを通じて縋のつながりや、高齢の地域の指導者や住民との交流は、有意義なもの日であつた。この日までに田植えを終え、なむでん踊りを迎えることは農家にとつては大きな喜びであつた。

が長い時期とは言え夕方5時から7時まで子どもを預かり帰すという中での子どもの安全への配慮など気苦労は多い。指導者の高齢化で中断されていたなむでん踊りを平成27年、復活したのは、伝承教室に参加していいた青年になつた子どもたちである。このままでは地域の伝統行事が廃れるという思いで復活させたものである。その思いは、徐々に地域行事への理解を再生し始めている。「かつての田園風景は遠い昔になりまして、その思い出を残すのが、昭和61年頃からは少子化の影響で、学校にお願いし久賀地区全体からの参加を募った。平成18年までの伝承教室参加児童生徒は202名（途中参加や退会も含め）である。

が、昭和61年頃からは少子化の影響で、学校にお願いし久賀地区全体からの参加を募った。平成18年までの伝承教室参加児童生徒は202名（途中参加や退会も含め）である。

## 下関市立豊北歴史民俗資料館



## 人を育てる風土

この資料館（以下太翔館）は滝部村（現豊北町滝部）出身の中山太一氏と弟の豊三・喜助氏3兄弟が約5万7000円余を滝部村に寄付して大正13（1924）年に建設されました。建築後も理化学機器や改築費を寄付するなど総額12万6000円となり、現在の金額に換算すると2億5千万円と、巨額で郷土の教育振興、人材育成に対する思いの強さを知ることができます。

豊北では、阿川毛利7代当主毛利広漢が宝暦3（1753）年、家老や寄組家といつた家臣の子弟教育のため、郷校「時習館」を開設、学問を奨励し、人材育成に努めました。また、阿川毛利家に仕え大変優秀な学者であった蒲生鳳林（貞固）は、時習館で教鞭をとつていきましたが、滝部に私塾「中山館」を開校し、最後まで、この地を離れる事なく、熱心に子弟の教育にあたりました。こうした教育的な風土がこのようないい風土がここにある理由の一つでもあります。

## ルネサンス様式の建造物

太翔館はルネサンス様式の石造建築を木造に取り入れた構造で、大正期の代表的な木造の学校建築として、昭和54（1979）年に県の有形文化財（建造物）に指定されました。

我が国では珍しく、中央本館から左右45度の方向に建物が配置され迫力ある独特な建造物になっています。設計はドイツ人、宮大工の伝統を持つ阿川村（現豊北町阿川）の棟梁橋本銀之助によつて建造されました。木造ですが石造をイメージして、壁の色がグレーになっています。



講堂の奉安殿のファイニアル



玄関の三連半門型アーチ

## 館内の見どころ



小学校の教室（昭和30～40年代頃を再現）

1階は豊北の地域案内や建物の由来、小学校の教室が再現された部屋、学習室などがあり、2階は講堂で特別展や企画展が行われます。訪問した日は、入れ替えた時期で講堂には何もありませんでしたが、その広さも見物です。

小学校の教室は、昭和30～40年代頃を再現しています。当時の小中学校で使われていた本物の木製の長机、椅子、定規等懐かしい資料を展示しています。机は2人で1台を共有する形で天板が上に開くタイプのものでした。年配の方にはとても懐かしく感じられるのではないかでしょうか。

1階エントランスにはフロント企画展として「ドンザ」の展示がありました。（2月末で展示終了）「ドンザ」とは寒い海上で漁をするときの丈の長い作業着で、綿が普及する以前に使われており、古着等を重ねて繕つたもので、少々の雨に降られても中までしみることはなく、防寒性、耐久性がありました。

豊北町はその昔から漁業とともに廻船業が盛んで、北前船の西廻り船路などで肥中港、特牛港が賑わった歴史もあり、こうした民俗資料が多く残っています。太翔館では、漁具関係資料3867点が平成24年に国登録有形民俗文化財「豊北の漁撈用具」として所蔵されています。

## 企画展も楽しい

いろいろな企画展がありますが、



『ドンザ』の展示

最近で人気だったのは、「豊北の宝展—小学校に残るイッピン—」。豊北町では平成27年3月から8つの小学校が閉校し、令和2年4月に新しく豊北小が開校しました。そこで、閉校した学校の沿革、校旗や標本、写真アルバム、文集などを展示したところ、期間中（令和2年6月2日～9月27日）1200人程度が来館。豊北地区町づくり協議会作成の「ふるさと豊北の校歌」を聞き、涙を流された方がおられたそうです。太翔館では、こうした創意工夫されたイベントや講座等が用意されています。

取材では、学芸員の安田豊さんから、十分な説明を受けました。丁寧に対応してくださり、ネットでのクチコミの評価が高いのも頷けます。ぜひ訪れてみて下さい。

住所：〒759-5511 下関市豊北町大字滝部3153-1  
開館：9時～17時（最終入館16:30）  
休館日：月曜日（祝日又は振替休日の場合は翌平日  
12月29日～翌年1月3日）  
入館料：無料  
※「太」は中山太一の「太」、「翔」は建物の形が両翼を広げた鳥の姿と、未来に向けて羽ばたく子ども達の姿をイメージしています。

## 第11回 青年教師の集い

- 1 趣 旨** 小・中学校の青年教師が集い、授業実践及び授業構想を検討し合うことをとおして、「明日を拓く豊かな授業」を構築する。
- 2 主 催** (一財)山口県教育会
- 3 期 日** 令和3年8月10日(火)・11日(水) 1泊2日
- 4 会 場** パルトピアやまぐち
- 5 研究教科** 小・中学校国語科  
テーマ：国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育てる国語科指導
- 6 参 加 者** 小学校教諭6人程度 中学校教諭6人程度 計12人程度
- 7 参加経費** 交通費、宿泊費等の必要経費はすべて主催者が負担する。
- 8 研修日程**

時刻	研修内容 (8月10日)	会 場	時刻	研修内容 (8月11日)	会 場
9:30	開会行事		9:00	【小学校と中学校の2部会に分かれる】	
10:00	【小・中学校混合の2部会に分かれる】 実践例の発表	パルトピア やまぐち 中ホール	10:30	模擬授業の指導案作成	パルトピア やまぐち 中ホール
12:00	昼食・休憩		12:00	模擬授業	
13:00	実践例の発表（午前の続き） 発表についての研究協議		13:00	昼食・休憩	
15:00			14:45	模擬授業（午前の続き） 研究協議・指導助言	
16:15	指導助言		15:30	全体会・閉会行事	
18:30	夕食・意見交換会				

- 9 参加申込** A4判用紙に、①氏名 ②性別 ③教職経験年数 ④所属学校名 ⑤応募の目的 を記入して、(一財) 山口県教育会へFAX送信 (FAX083-922-5768) する。  
 \* 応募用紙の様式は、(一財) 山口県教育会のホームページからダウンロード可能。  
 \* 申込多数の場合は、主催者が「⑤応募の目的」を比較検討して決定する。
- 10 申込締切** 令和3年6月11日(金)
- 11 問合先** (一財)山口県教育会 山口市大手町2-18 (TEL)083-922-0383 (FAX)083-922-5768

## 第72回 日本連合教育会研究大会香川大会

- 1 大会主題** 不透明な時代にあって、自らが輝き未来を創造する日本人の育成
- 2 主 催** 日本連合教育会 (公社) 香川県教育会
- 3 期 日** 令和3年8月18日(木)～19日(木)
- 4 会 場** サンポートホール高松〔高松市サンポート2番1号 (TEL) 077-521-1111〕他
- 5 大会日程**
- |          |      |       |       |         |       |       |
|----------|------|-------|-------|---------|-------|-------|
| 9:00     | 9:40 | 10:30 | 11:40 | 12:10   | 13:30 | 16:30 |
| 8月19日(木) | 開会式  | 全体会   | 記念講演  | アトラクション | 移動昼食  | 分科会   |
- 記念講演 演題「輝く未来を創る力、好奇心を育む～宇宙物理学者からのメッセージ～」  
 講師 佐藤 勝彦 氏 (高松市こども未来館名誉館長 宇宙物理学者)  
 アトラクション 香川県立琴平高等学校郷土芸能同好会、高松市立国分寺北部幼稚園  
 分科会 ①教育課程 ②学習指導 ③道德教育 ④生徒指導 ⑤特別支援教育 ⑥人権教育  
 ⑦外国語教育 ⑧幼児教育 ⑨幼稚園・小学校・中学校の連携 ⑩学校・家庭・地域の連携
- 6 参加日程 (全行程貸切バス移動)**
- 8月18日(水) 新下関駅前→山口県教育会館→〔瀬戸大橋〕→香川県内視察研修→高松市宿泊施設  
 8月19日(木) 宿泊施設→〔大会参加〕→大会会場→〔瀬戸大橋〕→山口県教育会館→新下関駅前
- 7 参加経費** 自宅から最寄り駅・教育会館までの往復交通費と飲食費を除いて、その他の交通費、参加費、宿泊費等の必要経費は(一財)山口県教育会が負担する。
- 8 参加募集** 40人 (予定)
- 9 参加申込** (一財)山口県教育会へ、電話 (TEL 083-922-0383) で参加申込を行う。  
 \* 多数の場合は、初参加者優先とする。
- 10 申込締切** 令和3年6月4日(金)
- 11 問合先** (一財)山口県教育会 山口市大手町2-18 (TEL)083-922-0383 (FAX)083-922-5768

### 【お詫びと訂正】

情報紙「山口県教育」4月号で誤りがありました。  
 謹んでお詫びと訂正を申し上げます。  
 4ページ中段「支部、地域の文化活動支援」写真説明文  
 誤→立志の誓い (大島中)  
 正→立志の誓い (大島中)